

後編 不登校プロフェッショナル

Asamicro さん 不登校と朝ごはんダンスの今を語る

去る7月7日の横須賀子ども若者応援団はゲスト asamicro 松井麻実さんの講演 & 公演でした。不登校現象をふきとばす、プロフェッショナルな人生表現 後編を堪能ください。



月一恐怖は病院後 小学校4年生ごろ共済病院の精神科に月一回、両親あるいは母と通っていたんです。月一回共済病院へ行くと母は安定して優しくなる、でも次の日には必ず私のミッション、ご褒美が用意される。月一回行った後の両親または母は、私に何か課題を持ってくる、あるルーティーンみたいな法則を見つけたんです。月一回病院へ行くと、私は次の日に何か挑戦しなければいけないんだということに気づきました。カウントダウンのように。私は何かをやらなければいけないんだ、恐怖に感じる次の日がありました。



朝ごはんを食べてもいい 父に聞いたんですけど、共

済病院の精神科の先生が次のように言ったそうです。「この子の治療方針を変えましょう。目的を学校へ行かすことではなくて、どうしたら社会で生きて行くことが出来るか、という方向に変えましょう」ということに。

その時に重要なのが体内時計。「体内時計がくずれてしまうとなかなか社会に復帰するのが難しいので、行っても行かなくても朝昼夜(のリズム)を作ってください。ご飯を食べるとかでもいいので、朝昼夜を迎えられるような状態にしましょう」と言ったことがあったんだと思います。恐怖の一日の次の日、それを母から言われたのか、何となく子どもながらになんだか過ごしやすい朝があったんです。たぶん「学校へ行かなくても、この朝ごはん食べてもいいんだ」というぐらいに私は思えたんです。テンション低い朝ですけど、その朝ごはんを食べたという記憶がありました。結果として、今ではすごく感謝をしています。

麻美ちゃん踊れば

汐入小学校の相談学級を1年生ぐらいから進められて何度か行くんですが通えませんでした。小学校5年生ぐらいから10分ぐらい居て帰る、それを毎日続ける。次は20分、午前中、午後とだんだん時間と日数を増やして相談学級という所に行き始めるんですね。勉強もしないし好きな事しかやらないんですけど。当時そこで出会った担当の渡辺先生の元で、今日お呼びできればよかったんですけど、私はV6が好きでTVで見て踊ったりしていたんですね。その先生がある日「麻実ちゃん踊れば。踊ってみればいいじゃん」

と軽く言われました。それがきっかけで、相談学級に来ていた友達が皆一緒に、私が振りを全部覚えその子たちにダンスを教えました。そうするとみんな喜んでくれて、V6になったような気持ちで「楽しい」みたいになってくれました。午前中ビデオを見て振りを教えて、給食を食べて踊って帰りたいなことを毎日やっていました。ある日渡辺先生が「せっかく練習しているから発表してみる？」と言ってくれたんですね。汐入相談学級は、一般の小学生も来ている学校のある一角の部屋だけが相談学級になっていて、トイレに行くと一般の子も使っているんです。失礼な言い方をすれば隔離されている感じなんです。ある日、渡辺先生が音楽室を私たちの為にとってくれて、保護者にも声をかけ、時間が空いている先生も呼んでくれ校長先生も来てくれて、私たちのダンス発表会をしてくれたんです。生まれて初めて人前で踊る、V6のプッシュアップビデオでスカーフを持って踊る真似して、みんな風呂敷みたいなものを持ってきてジーンズに括りつけ音楽室で踊るんですが、保護者や先生方に拍手をされてめちゃくちゃ嬉しくて、自分の状態でちゃんとそこに居ることが出来たんだなという感覚を味わったんだなと思いました。



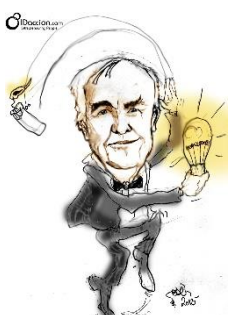
踊る asamicro さん

in 三浦学苑前

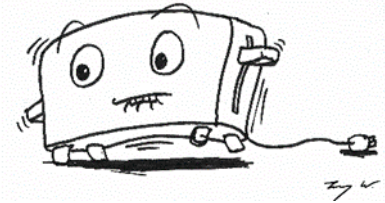
これがきっかけでダンサーに その後はどんな学校へ行って勉強は？…と話すとき明後日くらいまでかかっちゃうんで今日はやめて、朝ごはんダンスとはという説明、ここからダンスの流れにつながっていく話をします。私はダンサーとして朝ごはんダンスという活動をしているんですけど、「朝ご飯をおかえましょう。皆さん朝ごはんを食べてください」と推奨しているつもりは全くありません。元々朝ごはんがめちゃくちゃ大嫌いで、朝ごはん食べたら契約的に学校へ行かなくちゃいけない、働かざる者食うべからずということではないのですが、これ食べたら何かやんなきゃいけないのかと思う人でした。だから朝という時間がめちゃくちゃ嫌いでした。寝たふり、頭いたいとかしました。でも、あまりにも学校へ行かなかったので、その後2012年から朝ご飯を全部記録をし始めました。私は良い朝ごはんではなく、良い時間を大事にしたいなと思って記録をしているんです。他の人はそれが昼であっても夜であってもいいんです。私はなんか朝ごはんを食べるといったんゼロになるというか、昨日が最悪でも最高でもフラットな状態になるという意味で、表現活動の一つとして朝の記録をしています。この時に感じたトーストの形とか、嬉しい気持ちとかを踊りにしている活動をしています。

トースターの中で踊ろう 朝ごはんのダンスを制作をしていく中で、どういうパフォーマンスをしようかと考えるんです。どういうパフォーマンスしようかと…。知恵もないのですが、朝ごはん＝トーストの形？だし。トースター？ そう「トースターを発明したのがエジソンですよ」というところから、エジソンのことを調べ見ておくかと。すると「なるほどな」と。エジソンは3か月

間で見事登校を拒否した人、一番できない人、お前最悪だなと言われてた人の走りだなと知りました。エジソンはある日学校で担任の先生からクラス全員の前で「きみの頭は空っぽだね」と大笑いをされたそうです。その瞬間泣きながら教室を抜け出して家に帰って「学校へ行かない」と言ったそうです。母親は「何で？」とエジソンに問うよりも、「なんでそんなこ



とを言ったんですか、もう結構です」と先生に言い、親子共に自ら登校を拒否したそうなんです。その記事を読んだ時、「あの時何だったのか?」、給食時間の忘れていたことを私も思い出しました。痛みではないんですが、橋田寿賀子の脚本に出てくるような先生の訪問に拳骨でドンと頭をたたかれ、その瞬間の空気。みんながバアッと見て「かわいそう」というより、芸人でいえば滑ったみたいな感じ、そこから「こんなの行く必要くない…」というのを思い出しました。私も2ヶ月しか行っていないので、これはエジソンと同じだなぁと思って。そこからいつかトースターをいっぱい並べて、トースターの中で踊ろうかなって考えてしまったのが感想です。めちゃくちゃはっしょっているんですけど、ここまで来ています。



ここで私のダンス動画を見ていただきたくて、滝田さんも龍崎さんも来ていただいた去年横浜市ダンスプログラムを紹介します。著名な美術家さんと音楽家さんとコラボレーションが出来て助成金を頂いての公演をすることが出来ました。その時の様子です。“朝ごはん”というタイトルで、めちゃくちゃ重い暗いガンガン踊る…「フライヤー(チラシ)と合っていない」と言われた公演だったんですけど。「これが私の心の中で持っている朝ごはんです」と伝えると、「めっちゃダークだね、激しいね」っと。1時間ひとりで踊り続けたくさんの人に見ていただきました。

振り付けの仕事もしてまして、こちらの方は名古屋のシンガーさんのホットで感じます。(プロモーションビデオが流れる)

キラキラと お時間があっという間に過ぎてしまいました。先ほど龍崎さんも「応援団会議、皆さんでいろんな問題を話し合ってください」とおっしゃって



横須賀の母? 新井さんと

いました。いま私が思うこと伝えたいことは「なんで私は踊っているのか?」「何でこういう事をしているのか」ということの一つの理由は、“**こんなんでもこうなりました**”ということを証明していきたいという気持ちがあります。その中で、全然違う何かキラキラした状態で名前を知って欲しいんですね。じゃないと、マジでこの人、昔私がくすぶっていたころの“不登校”，なんて「ダサイ」「暗い」「ブス」みたいな印象が植え付けられていて、自分では全然暗くないと思っていても、イメージとしてはあったんです。だから、「そうじゃないということ発信しなきゃいけない」ということをすごく自分の中では思っています。そういう思いからも、何か“キラキラ人”として名前が上がり売れ活躍して行ったら「**こうだった!**」というのをやってやりたい。ダンス側の自分の意地みたいなものがある、「動いていったここまで来ました」と。同じ思いをした人に、「イケてんじゃん」「大丈夫じゃん」と。いろんな人にどうやったら伝えて行けるのか、同時にすごく考えています。

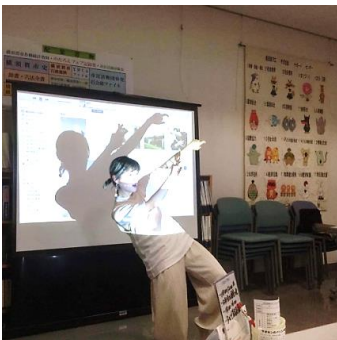
改善はிரらない 周囲の安定 私はフリーランスでアーティスト活動をしてい

に回復します。勝手に自分で上がっていくと思う思っています。そのきっかけとなるのは、その当事者の子どもではなく、その子がふれている周囲の人たち、大人に伝えたいと思っています。それはなぜかと言うと、周囲が安定すると、その中心にいる人は絶対自分の中で、「これやってみようかな。これならいけるかな。ここでステイしよう」という感覚が戻ってくる。周囲が不安定でいると、自分をキャッチして意固地になっていく。この問題じゃなくとも恋愛などでも言うかもしれないんですけど、人の心はコントロールできないよ！みたいな。で「人はミラー(鏡)だ」とかいうじゃないですか、相手を変えたいときに自分がまず先に変わるべきだという言葉もあるじゃないですか。当事者がとても暗くて、周りは心配して「どうやったら外に出て行ってくれるのか、どうしたら生活できるようになるかな。応援しているよ」という気持ちと、「元気になって欲しい、もっと明るくなって欲しいな」という気持ち。でも周囲の人が明るく元気になってくれないと、ミラーにならないと思います。何かをしてあげるといふ前に、まず周囲が元気に明るくなってもらわないと、たぶん心の中にあるパワーが光ってこない。

現実的な話を！ 感情論ではない 私が思うに、子どもが社会の中で生きられるようにするためにみたいな話があっても、不登校でもひきこもりでも、その人がその生き方を選んでしまったのだから、それはそれでしょうがない。大事なそれはそれを思っている側、周囲が感情論ではなくて現実的に、不登校か？ひきこもりか？ お金や将来ではなく現実的なことを話していけたらいいのかなと。私の勝手な感想ですけど、思っているもどうしようもないから、どうもできないから。

風通しのいい表現者 ただ自分が何で踊り続けているのかというと、もう完全にブラックホールの中みたいに自分の中では解決できなくなっている。いい思考も生まれえないし、ディスカッションしても何も生まれえないし無理だと思います。その時に自分が窓開けるみたいに、風通しいい表現者になると思っています。私が何を訴えるのか？ 私に何ができるか？ と言われれば、今現在私は分かりません。何も解決していない、でも今日は雨の七夕だけど、何かこういう話をしてエジソンの話をした面白い子がいたんだ。何か落ち着くんだけれど、みたいな。その一瞬の隙間みたいな、間みたいなものを作っていけたら、そこに少し風が入ったら、「へー」って何か風通しになれたらいいなと思って今日始めました。

私が伝えたいこと、改善は必要ないと思っているし、スタンスで踊りしゃべり映像を作っていくつもりで、今日もここにきています。答えも、この先もない、ただ続いていかなければいけないのです。私は学歴がないので、専門学校には行ったんですけど、学力的には最低限の勉強しかしてこなかったし生活はすごく苦しいです。色んなところに自分で交渉し公演し踊り、ギャラを頂いて。でも集客が無ければお金はないし、稽古を入れてしまったら仕事がなく生活が苦しい、そういう生活をしています。私を応援していただくために、見に来てください。動画を見て(<https://www.asamicrodance.com/>)、イベントに出ているので、こんな踊りに興味を持って応援していただけたら嬉しと思います。今日はそんな気持ちでここに来ました。私の思いを全て伝えましたので、ダンサーなので踊ります。最後踊って終わりにします。曲 ♪♪ 私の話を聞きたいの♪♪
シンガー: 寺尾紗穂「楯円の詩」より



子どもたちが自死に追い込
の声を聴き、未来♡夢を語りま
大人のみなさん。学校よりも
へ行かない選択を勧めません
係や勉強、集団優先の重い荷物
ちはだかる学校(先生)を解き

2回にわたって松井麻美さ
ダンス公演 in 横須賀)をお読
再考されたと思います。子ども
ぐくむ学校は、エジソンの葛藤
ていません。むしろ闇の深まり

松井さんは身をもって気づき、家や地域やフリースクール(相談学級)で成長
してきました。子どもが改善されるのではなく、感情論に押しつぶされる大人
の安定こそが、子どもの解放、風通しの良い表現者へ歩を進める麻美さんとな
ったことを、ダンスで表現しました。

言うまでもなく子ども一人ひとりの成長は違っています。子どもは固有の特
性があり、その凸凹(上手い表現ではないですが)を“改善”(松井流)するの
でなく、自ら凸凹を表現し周囲との関係で子ども自らが気づいていく、これが“成
長”であると。“改善”を迫る大人が子どもを追い込み、先生が掲げる“正しい”
学び生き方規範=正義が子どもを追い込む、今ここ9月1日にあります。

学校へ行かない行動をする子どもたちに、学校教育を再考する時代の到来を
覚悟する必要がある、大人に生まれているのです。「みんな違って、みんないい」と
言われて久しく、支援教育・インクルーシブ教育が問われる今、ましてや先生
とは「先を生きる」人です、子どもたちの個性や特性を理解しその先を示せる
はずです。「こう育てよう」「これを学ばせよう」と方針を掲げながら、「今この
子は何をしたい?」「どうしてこういう行動をするの?」と子どもへの関心興味
を持つバランスが不可欠です。そしてチームとして複眼的に取り組み、親はも
ちろん地域 NPO など市民と共に一人の子の多様な成長を実現しましょう。難し
く苦手な子、いや笑顔で社交的な子にも、9月1日は「子どもの心を優先して」
といえる大人になりませんか。

8月25日(日)横須賀応援団(右写真)に小学4年生不登校のお子さんとお母
さん、中学校3年生不登校のお母さんが参加されました。背景は多様ですが、学校へ行かない現実
は同じです。子どもの最善のために学校は、大人は何ができる
のか? 今一度松井麻美さんの言葉を振り返りましょ
う。「改善は要りません…周囲が安定するとその中心に
いる人(子ども)は絶対自分の中で、これやってみようかな。これな
らいけるかな。ここでステイようという感覚が戻って来る」と。

9月1日、夏休みの終わりにご一緒にお考えください。(滝田衛) - 5 -



秋葉原もこもこ雲
by 川辺悟史さん

まれる9月1日。子どもの心
しょう。親御さん先生そして
“子どもの命が大切”、学校
か。いじめや不登校、友人関
(壁)として子どもの前に立
放ちませんか。

んのメッセージ(7/7講演
みいただき、学校と不登校を
たちの悩みや特性を育ては
から150年経ても変わっ
を実感しています。



それぞれの風

○三浦学苑高校(横須賀)特進クラス1年生が“地域活性化イベント



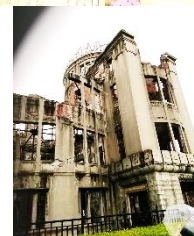
よすか・ゆめ・みらい”を8月18日(日)開催しました。医療に始まり人権に及ぶ12のテーマをワールドカフェ(意味を理解していませんが)方式で各3クール実施しました。僕は⑩ところにゲスト参加、「いじめ」「不登校」「社会的ひきこもり」を話し合いました。関係者を入れれば全体で300人以上が集まり、吉田和市長先生等著名な横須賀の方々が集まりました。閉会で「子どもや親を支援してきた僕が、高校生に『あ

なたはどう理解し取り組みますか』と問われたことは初めて。大人たちに解決せよ！と叱咤激励を受けた。」と高校生への期待を述べました。来年も続けられることを願っていました。

○これも横須賀です。1年半前から取り組んでいる“被爆体験を語り継ぐ会”が、8月原爆被爆の展示会を市民活動サポートセンターで、10日には語る会を開きました。かつて被爆者に体験を聞き記録してきた三澤幸子さんと沼崎真由美(代表)さん等が進めて来ました。



僕も1年ぶりに広島へ行き、全面的に展示改修されました原爆資料館を見学しました。一人ひとりの生きざまに迫る画期的な展示となっていました。米国精神科医ロバート・リフトン著書「死の内の生命—ヒロシマの生存者」、また原爆詩人と言われた栗原貞子さんの顔と詩「生まれめんな」を思い出していました。中距離核兵器、そして経済戦争の様相が深まる世界情勢にあって、核兵器禁止条約と平和主義・憲法9条の推進を実感でした。



○中間報告です。今年度研究所 & 3地区の活動(125,000 円執行)をお伝えいたします。

会員の皆様方の支援に御礼を申し上げます。今後ともお見守り下さい。

- ・横須賀応援団
 - ・7月 asamicro 講演公演会 講師料(10,000 円)
 - ・11月 asamicro「Laundry」公演支援(35,000 円)
 - ※ 参観希望の方には追ってチケットご案内します。
 - (予定)・12月「ロボットコンテスト写真集 by 龍崎」支援(50,000 円)
- ・鎌倉応援団会議(フリースクール Largo)
 - ・5月26日「西野博之さん講演会」支援(50,000 円)
 - ・8月 18/24 日 「学びは自由だ プロに学ぶ」支援(10,000 円)
- ・逗子応援団会議
 - ・5月 cocolo の会バザー寄付(10,000 円)
 - ・9月26日 「不登校♡だから未来に夢ある実現を(進路)」(10,000 円)
 - (予定)・「多様な学び場まっぷプロジェクト」さなぎ上映会(50,000 円)

9月予定

○7日(土)10:00~Largo「女子会 & 男子会」(鎌倉応援団)in 深沢ふかふか

○22日(日)14:00~横須賀応援団会議:龍崎明信 in 横須賀市民活動サポートセンター

○29日(日)13:00~ひきこもり発信プロジェクト:新舛秀浩・15:00~ゆずり葉の会「不登校♡だから未来に夢ある実現を」:橋本由美子(逗子応援団)in 逗子市民交流センター

○研究所開催日5・12・26(木)日 ○鎌倉市3・6・10・11・13・17・18・20・24・27日

【発行編集:滝田衛】住所:鎌倉市七里ガ浜東2-31-12 携帯:09072124055

●メール:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp ●研究所:<http://shichirigaoka-lab.jimdo.com/>

●応援団:<https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan/>